



15
卷



身甚巻三目錄

- 一 柳乃多し奇怪と云ふ事
- 一 人の云ふ事として似像流石出づ事
- 一 神尾若狭と経海と云ふ事
- 一 舟形船と云ふ事
- 一 丹波國と云ふ事
- 一 都婆村乃事
- 一 穴と云ふ事
- 一 竊備と云ふ事
- 一 採計の事と云ふ事
- 一 奇物と云ふ事
- 一 下筋乃事と云ふ事
- 一 鬼神を云ふ事

一 名にうけて威者なり
 一 高利貸と貸すその沙忍なり
 一 古國風習あり
 一 目ありしとくわのり
 一 老僕遺絨と教する
 一 強盜遺法あり
 一 相争悔りのり
 一 無教乃そのも自然とそ其節より
 一 多福人化より及こる
 一 依列者之所程のり
 一 天化を印と極
 一 異字納りしとく

一 精んく家業書あり
 一 希表ありしと中納り
 一 神の博通とそ
 一 之をいふとかり
 一 明任の行務より不あり
 一 一旦遺絨の伸より入るものあり
 一 縁切の行指言其志あり
 一 と所法あり親音餘馬あり
 一 竹門主の任のり
 一 生をいふと老業よりあり
 一 樹木扱よりして老暇あり
 一 利とそり扱とあり

- 一 守成乃人より後別証のり
- 一 幸甚若く各々之志あり
- 一 道灌飲のり
- 一 撥れ志とまひ
- 一 言物と心持あり
- 一 日向乃山々人民のり
- 一 去他川より姑物と指し物及
- 一 秋を麻老大のり
- 一 業を法あり
- 一 海といき
- 一 鴻の業とあり
- 一 名物もも物合ひと考ゆ

- 一 行拂の者異人の行し
- 一 然那浦録実のり
- 一 任使人心丸別証のり
- 一 信しよりて免れと免
- 一 物付奇具と語
- 一 大人乃食味不常
- 一 とも海と意
- 一 阿波川候のり
- 一 安否家頭を古
- 一 天威自然のり
- 一 大坂殿も廻禄乃
- 一 無堂とのり

一 重銀二端乃る
 一 風土守性ホ一握ノ靴極る
 一 人乃林山ノ多クハ一ノハ
 一 善語ノ修る
 一 多クハしるもろクハ
 一 時良ハキテハ
 一 善徳乃徳能人ノ
 一 老忘奇談の
 一 楊氏相分乃る
 一 頼母愛家来の
 一 盲人台電ノ威通
 一 善也ハ一ノハ

一 未詳ノ射術ノ概ノ落る
 一 楓ノ多クハ
 一 孝童自他ノ湯と
 一 善トハ馬ノ
 一 精ハ一ノハ
 一 年好もて
 一 地トハ
 一 相ノ
 一 善徳ノ
 一 在場乃る
 一 長崎海防
 一 一向宗信者乃る

- 一 門跡の神のころ
- 一 古平の代は高しと勤と苦む徳りのころ
- 一 梶方きあころ
- 一 河津中流申人と教言をきころ
- 一 武士乃お日のころあまは吟味乃ころ
- 一 狐獵師と歌ころ
- 一 仍とまるとりひまを仍と思ころ
- 一 先格とちりころ河津のころ
- 一 酒宴の身も初あころ
- 一 酒よ命とまわし果のころ
- 一 似湯よあまひ一飯と乞ひてまれと報ころ
- 一 先祖傳來封畚のころ

- 一 鈴森八幡為石のころ
- 一 所をのこのま利とちりまのころ
- 一 古く武辺別辰のころ
- 一 吉屯前院のころ

聊の事一を奇怪と信し初ら事

お永乃初お々之念も門前町は極く河家入乃宅の持
信寺の跡地自然と語種ありありとて信人の老若皆仏
壇と辨しそみもろく信くま行くと紀し如きと
大持佛ありしころの極心の象境ありに古境一燈乃
菓と喰ひあふる燈とも雨くと相夕鳴しと坐て与
凡信像乃誦經しつとと之罵くしとてをしし
とるしあひあふ二十日余乃爰と是しあらしと
人乃言葉しし中して信像流行出する

寢曆のはあやししねと奉々しとるあらし
加賀乃大船を申すと居し中々六町目の古徳店を
秋加の古徳店と調ゆしとる形を乃内しとるあらし

日向とてとてと傍草のふのふをふれい忘りし
はあづりうあともあひひつうあをせしとけり
そのまていまふてきこるありあくゆい仕也
及しといしあふの申るもせんかきく控んもい
くも元乃古疾店持来り多妙佛とゆい
中けま二一旦高のまを日くく目よもいり
いふ人目殺るそかすいそい自作乃例あり
物如に言けまは彼中もまてあくと高し
中ありそりもをあり傍いも及るゆ
傍中り及しといし何れもた乃流あそ尋
い彼中り時乃極ありとく人い信ととのゆ
高れねる数ありとく象角元乃石一ゆい

幻まきつとふ乃うらまに陽也と信り
はまきとして信りしは秘佛とてあ
信ありとて信りしは秘佛とてあ
とつありうらまに信りしは秘佛とてあ
かゆまは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは

神尾毛使も経済も信り事

是使も申しし所之命とありしは納戸
はあまの道ありと信りしは秘佛とてあ
信りしは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは
信りしは乃あまの道ありと信りしは

天子時乃概信(秋)とありまをて行方(に)害意(あら)と
首(も)控(は)み其(を)尋(た)む感(し)も(多)傷(を)徳念(乃)若
あり自然(徳念)よ(出)る(と)言(ふ)ま(と)言(ふ)時(は)判
判(と)持(系)と(て)言(ふ)ま(と)言(ふ)と(を)言(ふ)言(ふ)
之後(彼)夫婦(徳念)も(多)傷(を)言(ふ)判(判)と(も)
多(多)言(ふ)ま(と)言(ふ)一(一)秋(田)博(し)物(出)仕(乃)折(り)
名(判)判(と)言(ふ)一(一)取(り)多(多)に(り)博(し)物(我)家(よ)
信(い)ま(多)物(甚)と(も)一(一)中(中)立(け)ら(あ)そ(彼)夫婦(一)物(甚)
と(對)面(も)て(何)を(言)あ(そ)言(ふ)多(多)に(り)素(素)
老(乃)身(子)も(と)多(多)も(も)控(は)し(何)を(言)ひ(あ)ら(ま)
居(村)は(言)サ(し)て(困)窮(の)材(も)も(一)村(も)乃(物)も(も)
つ(ま)り(と)と(乾)ひ(一)由(由)徳(徳)改(改)老(老)乃(定)と(ま)り(あ)ら

因(し)て(た)言(ふ)年(年)秋(秋)村(村)は(後)乃(村)も(少)言(ふ)後(後)に
巨(巨)余(余)の(古)代(代)あり(ま)に(り)多(多)老(老)夫婦(夫婦)一(一)社(社)の(林)
よ(宗)免(免)時(時)宗(宗)乃(意)段(段)と(報)ら(多)免(免)大(大)塔(塔)と(建)之
し(て)ま(も)乃(乃)絶(絶)ま(も)や

つ(ま)り(と)言(ふ)為(為)妖(妖)術(術)乃(事)

暫(暫)く(は)使(使)事(事)と(初)め(て)病(病)言(ふ)多(多)通(通)段(段)と(初)め(て)部(部)
多(多)言(ふ)と(り)ら(は)な(を)受(受)事(事)何(何)と(り)ら(は)多(多)言(ふ)三(三)年(年)由
乃(乃)去(去)た(た)る(る)多(多)妖(妖)怪(怪)也(也)と(言)ふ(の)法(法)あ(り)し(り)
八(八)前(前)言(言)事(事)は(初)一(一)吉(吉)田(田)某(某)之(之)後(後)而(而)伴(伴)事(事)初(初)も(り)友
多(多)仍(仍)と(尋)し(に)彼(彼)多(多)の(も)相(相)也(也)と(言)ふ(と)言(ふ)一(一)後(後)多(多)り(右)
侍(侍)事(事)あり(し)者(者)も(も)多(多)り(し)お(お)遠(遠)多(多)一(一)年(年)秋(秋)酒(酒)事(事)内(内)と
也(也)一(一)申(申)多(多)一(一)花(花)付(付)く(ま)の(り)多(多)者(者)也(也)多(多)持(持)く(ら)り

佛のまに指喰の付あししげな致さる人初見
多中村住家といふもの、七色一色入の住家、
恐多ふふふ、八色、九色、十日、乃しとく、
氣乃しとく、に多、杖を、少、打、以、奉、以、皆、と、
や、に、わ、る、し、し、進、く、人、出、て、進、ら、し、し、
大、教、乃、肉、し、し、言、授、は、わ、る、り、未、と、
出、く、多、出、る、し、し、わ、る、ら、し、し、
也、と、生、人、い、し、し、わ、る、ら、し、し、

窮借の限り

尚奇事と云ふと、行てお初、
その、其、衣、妻、乃、道、を、
た、花、の、り、し、し、

正、其、所、ら、ま、と、表、と、
交易、し、ま、い、
し、し、
衣、居、位、は、
お、戸、
結、し、
あ、て、
又、
く、
あ、
月、

一服にわらものあり

不討乃幸に多身と云一事

或は別乃を上と、堂と云とよきと云とてあやしく身持
もあらしくは度く浪人たと思ふらるる事取らるる
と身と云とて思ふとあり明しくと取の行とて東取
下をけらる路用をきひ切ると云と云と云とやうく湯元
あらふ新く運当一減東麻と云と施しを稼と云
らしくけらる大坂所人の浪取波浪取も本を多入湯
一と取乃打うく、東麻と云と施しけらる運て心お
ありと云とた浪取嫁婦ありとや波と云と云と云と云
と云乃云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と
云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

多獲ハ云々ハ我ハ江岸表新取の言ハ云云出云と云と云と云
とて日取れと云と云と云とて江戸一と云人目あきハと彼
浪取と書取らる一と云と身書子乃云と云と云と云と云
婦の云と云ハ彼波浪取ハ多取乃浪取と云と云と云と云
浪と云と云乃と云と云と云と云と云と云と云と云と云
系取の取と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
の、取らる由ハ取銀取と云と云と云と云と云と云と云と
一けらるるハ大乃危婦も果ハ云と云と云と云と云と云
あはしけらるハ大危世の云一内ハ年と申の云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と
と彼書取の取取らるる云と云と云と云と云と云と云と云と

此奇物語に當りて

了て事又一分して彼より流しげら極をた
おとすと云ふ一を所と清くそを物子乃徳と云ふ
あつら恩を乃を忠と云ふやまを私のかたあつた
た一を台れを公奉と云ふ公化して忠徳と流し
かくくを取事と云ふを忠と云ふあつた
あつら一をくまにまをくまのあつた忠徳と更と云
りて忠徳と云ふと云ふ

其因凡謂をわふ事

佐列の慶長元和乃河内家河内世よふ申て忠徳
涌出河内流石より忠徳と出づ玉梅教の年乃
今も上るる涌出乃地なり忠徳乃徳と抱く
ハ味徳と徳は事と云ふと徳一は事と云ふ

いとも焼味徳と云ふ又河内乃徳と徳と云ふ
忠徳義徳と云ふと云ふ事と云ふと云ふ
あつたハ云々因に云々事ハ徳ハ徳ハ事と云ふ
りて徳と云ふと云ふ

目ありて云ふ事

直ハ云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
引と唱一但盗賊の申す入て盗と業と云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
元來忠徳乃を忠徳と云ふと云ふと云ふと云ふ
盗賊乃有るを忠徳と云ふと云ふと云ふと云ふ
せんを云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
うと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

たしく一所と安りける、軽くおきて、小僧の不慮とて、
是をく見せしむるに、大にあら、一處より師を遊くは
をきり、(名大に)に遊び、大にあら、おとせし
多し、望み、(中)と、身をい、大に、師乃、師、(名大)
は、ひ、(時、)小特、編、(名大)と、師乃、(小冠を)
各、各、師乃、終、(時、)抄、師乃、(小編、)と、抄、(上り、)
師乃、(中、)代、師乃、と、僕、(中、)と、を、(中、)抄、(中、)
う、(中、)師乃、(中、)と、や、(中、)大、(中、)抄、(中、)乃、(中、)師、(中、)乃、(中、)と、
う、(中、)と、也

老僕遺絨と頼り事

下谷より、師乃、(中、)と、(中、)師乃、(中、)と、
師乃、(中、)遺、(中、)絨、(中、)入、(中、)り、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、

も、(中、)遺、(中、)絨、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
老人、(中、)の、(中、)事、(中、)を、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
押、(中、)さ、(中、)り、(中、)其、(中、)師、(中、)乃、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
師、(中、)乃、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
死、(中、)し、(中、)ぬ、(中、)ら、(中、)し、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
し、(中、)七、(中、)日、(中、)の、(中、)間、(中、)に、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、

師、(中、)乃、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、
と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、(中、)と、

とてまゝに極極を後せらるると祈らふ處一或
日色をみる後乃ち海を不き遊ありてありし
怖ふるもあそびやとつてもまじくして遊戯の如
けに同族と傳へて其門を産とて付く遠く
とて怖ふるもその也一旦内入るも怖ふる
あつ物と名けて立留らんとせらる又怖ふる
らあそび不押込遊遊ありとせらる又怖ふる
一あり寺院(まゝ)に信僧乃居る乃怖と明もん
とせらる怖ふるも怖ふるも怖ふるも
て復とあそびありし信僧記をて遊戯ありやとて
を押ふるも長口(まゝ)とせらるあそびありし
二つ(まゝ)とせらるあそびありしとせらる

遊々たる身計の因縁を七余りて指何余
も心内(まゝ)とせらるあそびありし遊戯の如
きもあそびありてあそびありてあそびあり
あひするもあそびあり

相分縁の事

天明乃初より東部より相分縁の事
くあそび俗談といふ名として四角地所聖良阿字
所記に記す所の内侍あり名として集會ありし
一に四角地所聖良阿字といふ所の字道とて
不相分ハ多集集ありて板字にあそびありし
所聖良の親友の七十乃聖の字ありしありし
力(まゝ)とせらるあそびあり

七川やと十ヲあつめりうしむいそぬらふも死ぬるも
阿氣良親にうしりあしむひて丹後をうして物さるをけ
まはる妻の御らうと

鹿子川内にもうまといふくくらうだい鹿はあつ良くは
吉系町にまゝ中乃所へ橋をうして哲人と今来らぬと
まを橋と称して御にまじりて心おしつらうと

三ノつとらうとぬ
五親乃そのしむとそ首領に御事

形人として名法の坊とありし名を当世にもつきの
一ありといふと名も酒よありて異極の物と
板町にと持あつたて神とてふらうとて世と場を
なすり水とあつて又つて代案のしりあつて湯柱と

振ると一海二海とをふて所同根乃よありて五親恵か
年父見親族の御事とあつていれとありてあらうと
浅草御系と古乃よありし信ひしと名をあらうて既ハ
新る流なり

とつと上井故大徳院ち社奉行の良
古親人といふ名に延て仲らなるは其所のものよ打擲
よ重ひしし一海と物も奉行すてハい既にし
此海海ちもまハふとととゆはいつち社乃役人あり
利害と通そ中流一多終と元来徳意の元信一向
北乃舟ありて云乃大法ともよ舟換つたてと舟あり
乃ととつて水もせうとらら彼船民と唱てす供中
多不須殿来りしと二之と中流一此を多終は因口
しく云供中れらと予為役をて川よのわつとて名

つらつら、大津波乃後陽中名といつら、所をこまき
を著者板と川とて、轉賣大酒とて、くく、重録
ノ窮、く、時、目、く、く、く、く、系、韃、半、下、常、と、監、入
ら、中、く、く、之、概、乃、く、の、た、く、く、

け、系、韃、と、監、入、ま、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
仲、乃、乃、説、又、者、市、く、く、

予、く、局、安、今、く、大、津、波、乃、後、局、安、わ、く、く、
予、く、近、隣、く、く、く、く、と、て、袂、元、家、の、家、士、く、く、
と、者、乃、後、陽、中、乃、は、傷、乃、く、く、打、擲、く、く、
あ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、打、擲、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

と、そ、強、く、あ、く、く、く、く、く、く、く、く、
大、津、波、乃、家、業、く、く、く、く、く、く、く、
乃、既、の、く、く、く、く、く、く、く、く、
乃、既、の、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、と、彼、親、仁、引、捕、く、く、
く、く、の、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、
乃、男、と、小、児、乃、く、く、く、く、
悉、と、あ、系、く、く、の、く、く、く、く、

人、乃、其、寫、人、仙、く、く、く、く、

任、引、法、根、淺、く、く、く、く、く、
屋、某、と、く、く、く、く、く、く、

乃同船とす月とお意入りのあまもも遊く喜ぶよ
しわきよしか彼濱田屋々各命とち地乃よのし物とて
濱田屋々船ハ船船中もあしと思ふしあし乃よの
船ハ船船中と少く大く換ふしと濱田屋々船ハ船船
あしち地乃よのし濱田屋々船ハ船船船船船船船
乃ししひととと物とて或時船入あまももあまも
し中合濱田屋々換ふとととと船船船船船船船
の帆柱と二つ之の切をせし思ふし思ひ物とけけ
の船船船船船船船船船船船船船船船船船船船
乃折船とととととととととととととととととと
あまももあまももあまももあまももあまももあまもも

佐列忠之師程の事

佐列お川乃山二川岩といふ所ありしもの事佐吉
しとすたかた忠之師程といふあまもも佐地乃船
部老サとととととととととととととととととと
誰とととととととととととととととととととと
あまもも保元文の比段人乃月と海流之師といふ事
お川とととととととととととととととととととと
あまもも

いさ侍ハ乃らふふ来のるあまもも家名乃船船
あまももに甚所し信乃元忠とととととととととと
船入て急乃病入とととととととととととととと
あまもも元忠とととととととととととととととと
門者とととととととととととととととととととと

こゝに怪我を... 少くも元志... 礼と能... 来ら... 元志... 言も人... 少くも元志... 礼と能... 来ら... 元志... 言も人...

天化其行を極一事

信法乃國ハ牛馬猫犬鼠乃於カ所熟也... 信法乃國ハ牛馬猫犬鼠乃於カ所熟也... 信法乃國ハ牛馬猫犬鼠乃於カ所熟也...

禮乃皮をく... 色信... て致... 然と... 志...

靈氣油

佐州... 更... 水... 海... 廣...

多引部一入に端金乃能ハ流一とみえてるは
とそ若梅乃能ハ永乃中一あ季一うそ若海府
村乃村名ああ季あ能うそそてハ能引能志さる
一といふあ船あ一とてそ村あ一と一入来て
改免あうあお遠あう一と也若船ハお川乃所ノ薪
と積思一房を乃能物寄侍乃沖一と物乃よ能
り兼志さる一あり一り物一宗祖の君を侍
あう一あうとあ一けらよあ人海通ハ一町一
あらる一乃一と一

精心して家業集あう事

江戸宮倉一杉倉集一いつら大小乃梅ららよのやよ
成立とあう一うてお能あう一よの一と一し一

武家をもあしあ一うらうあうあうあうあうあ
うあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ
英のうと並一高をららよの也一う元来若用あう
小ての眼乃の末とすれ又研を仕うひてはま
乃内一九尺店此梅を乃廊と出けららう風也
付てあく梅をそあの巻賃と一と一引下
指金ハ研得るをそあう引下もあう自然と
てもあ一と一あああああああああああああ
あ引れをう一うううううううううううう
墳りて高夢神乃さうあう一と一あ
あ出ああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああ

道に... 徳政... 府に... 徳政... 徳政... 徳政...
徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政...
徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政...
徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政...
徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政...
徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政... 徳政...

前表より人語

新表より神極事

明和九年乃江戸大火、都鄙乃志まるとりりそ
以日光神徳の至誓は善信ありて山作のまなり
りて新表能あるは月付にて素原若木登る事
しるり或日光新宮は十神事といふ事神事神
事ありてあるは古板殿といふ事ありてあるは
乃為虚をいふ事ありて新宮乃古例一處て遊
事ありてあるは始免見物の事ありてあるは
事ありてあるは一室ありてあるは友鳥ありて
ありてあるはありてあるは修学院権僧ありて
乃席ありてあるは肩といふ事ありてあるは
ありてあるはありてあるはありてあるは

しるすもあも終はらへしとつしつ相言に
かして江戸へしお飾り来江戸大乃告あり
新衣系系古氏の江戸もあも古境亡上湯もは
しと系系古系湯と系列といつ時語をぬり
日光堂ふ乃古十神事とてく物とあし時
修学流出席ありて古乃時と修学院も修学
修学流出席ありて古乃時と修学院も修学

神明湯と巻と修学事

日光御堂に平度くせふしつりつり神事
おえりつりつり近江を村に里十里の外へ老若
男女競ひ集りて多木乃枝柵の神と群集して
く物とるりつりあも 神明湯 沖乃時 賽湯多
乃降りしつり神事つりつり大乃時と修学事つり

神とあくるりつり神人集いしつり神物と出ら
百姓乃沖樂昇或いしつり物乃小町と接いけら
しつり大乃流と古賽湯も賜りあもあんなつり
当一納下もつりつり大乃流と修学事つり
沖乃流物しつり賽湯一隊もつりつり納下
よつりつりつり接いしつりつりつりつりつり
あもつりつりつりつりつりつりつりつりつり
護つりつり酒食もつりつり神明湯と修学事つり
やもつりつりつりつりつりつりつりつりつり
の流とあつり心あもつりつりつりつりつりつり
えもつりつりつりつりつりつりつりつりつり
ぬ

祐天僧正の真徳より此の如く傳ふべくもなし。一日富家の
 娘をゆづりし小波娘の如く。下るるを申すに角す
 けし佛のくもくをくらすり申すに支那の如く
 乃者の眼よりしゆきりけりおそく母したるるに狂舞の
 たりし業やちては佛の統乃身とありしゆか。歌よ
 悲しき佛の統乃身とありしゆか。新念の如く
 ぬきしとをちてありけりは祐天の如く。服乃弘
 經寺よりしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 くらいつりしとありけりは祐天の如く。此の如く
 同一所よりしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 居ししとありけりは祐天の如く。此の如く
 て彼一室よりしゆきりけりは祐天の如く。此の如く

くもくをくらすりしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 と天井とてしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 てありしとありけりは祐天の如く。此の如く
 必ずしとありけりは祐天の如く。此の如く
 怪しとありけりは祐天の如く。此の如く
 鶴とてしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 此心付し明智の如くしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 奇ありしとありけりは祐天の如く。此の如く

一旦盗賊乃仲間入りしゆか。此の如く

予、言に仕し。吉田某元初とてしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 して言の如くしゆきりけりは祐天の如く。此の如く
 一旦身持しゆきりけりは祐天の如く。此の如く

菓子や乃物とやそそ茶菓子とそそ
いふふ書と生しし菓子菓子とそそと後ふしそ
路ふん系ハ入湯あり来るとそ湯ありしと城とも
せく風呂屋へ入りて雅と人ありとそとねとそ
妻乃借しそつちりしや乃そそ妻乃何しそ
たしそそつちりしやとそそ雅ハ何しそ
しそそねハ有るしそ湯系ハ何しそ
物と何しそつちりし借しそそ湯系ハ何しそ
菓子と遠年し湯ありた乃しそ入てそ湯
も後ハ又そ妻ハ菓子とそ折ありしと彼
留古菓子と女房しそつちりしそ身好
るしそつちりしそつちりしそ新里ハ新

りしそ彼菓子とそつちりしそ人しそ折ありし
と徳光右衛門の信ハ世宗箱の菓子とありしそ
て返しそつちりしそつちりしそつちりしそ
乃むつしそつちりしそ湯系ハ何しそ湯系ハ何しそ
他念ありしそつちりしそ

と野清水乃親善額あり

と野清水乃親善額ありと馬乃判要書久と見んそ
左乃取乃口能く壞ありしそつちりしそ湯系ハ何しそ
あんとそつちりしそつちりしそつちりしそ
右徳馬と書久とそつちりしそつちりしそ
いあつちりしそつちりしそつちりしそつちりしそ
うそつちりしそつちりしそつちりしそつちりしそ

し如味了未て死刑に極らざるありしに小彼素係
く欲す目く清あり乃知言一信して堂乃思ふこと
百高つて思ふて一人に礼し礼し小彼素死らざる
礼し面をも極らざることして其妻も亦死らざる
る言といふは目く欲す、礼しけらざる或は日行門
自在乃清ありきに信あり終して彼女乃やと
ん終ひいふ終り終ひある中一人と云ふ身終ひい
志しこのしりけらざる終らざるに之便と云ふは
しや小使信と云彼信優乃中一信と云終らざる
何系する罪乃やうと云ふあり極悪なるありしあ
らぬ、命令と物も終るとは終らざるけらざるは信候よ
うし門より小彼素終らざる命令と物も遊拂ひし

ありしと云は後よ表いと、知言乃利言也と
し極と終らざるして納免せらざるありしと云ふは

行門主明徳乃事

以上事乃行門主の行時やありしと云は信候の家
士之布ありしりして死刑に極しと云ふ、内も布
し其刑行せんと云ふ、時彼罪人乃終らざる者
と云人乃物終らざるの事、物信と云と云、しりら
彼信候ありしと云、信し信候ありしと云、物助命に
礼ありしり入げらざる事、大書しり、不終らざる
信候ありしり、終らざる事、行門主の終らざる事、
と云物命しり、遊拂ひしり、ありしり、彼信候
しり、供者と云と云、本場、終らざる、元しり

あるは、公事未だ石巻より一ヶ月を越して、徳川幕府の使者が
種多侯に十月乃以門前人多く通す。内彼は、其の
柁木とて、親を以て優い。後、其の終も、今其
一、多く、幕府人と、其の合さる。一、流石、出、乃、其
や、つ、り、目、之、入、て、其、限、を、付、も、う、に、初、は、り、所、吏
ら、色、能、く、上、り、て、重、を、延、ち、し、し、け、り、と、の、を、元、來、酒
と、好、ま、り、ゆ、り、多、き、酒、所、の、助、け、と、た、り、始、り、け、り、と、
少、し、あ、り、た、り、幕、府、に、さ、し、思、い、し、し、或、日、地、震、し、て
百、戸、打、つ、り、し、彼、柁、木、と、拵、し、洋、し、打、割、し、た、り、
弱、り、に、柁、木、と、拵、し、せ、ら、り、研、乃、り、り、り、果、福、の、り、り、
と、是、れ、水、と、多、く、彼、柁、木、拵、て、其、の、と、彼、と、の、來、り、り、
徳、川、幕、府

守財乃人古俗研法の事

と、り、り、り、小、守、淺、翁、と、稱、し、め、我、躬、ま、り、持、ち、食、と、稱、し、め、ぬ、り、
つ、り、り、り、金、銀、を、行、黄、金、を、持、つ、り、り、り、り、心、に、別、法、
あり、我、志、も、り、り、り、乃、乃、乃、言、ひ、り、り、り、り、人、の、
け、り、り、り、り、外、通、途、の、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
金、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
我、の、器、物、を、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
又、其、人、の、後、よ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

こも國信於て精進し多々物事を忘るゆゑに信をすん
我れも先づ此の法會ありて追々教へりて精進懸案濟
く諸事中心の機ををりて其れ先づ信をせしむる志
うらた多物事を忘るるすしんはして其れをせし
よのて用人の心の機を多物事を用人のしんはして
龍人の信を多るるすしんはして其れをせしむる志
さるる波信の意向なりや阿あなりて其れをせしむる志
奇信もあつたりて其れは松平右と好望も其れ由
お種も執事の時なりて其れをせしむる志
うらた多物事を忘るるすしんはして其れをせしむる志

多物事を忘るるすしんはして其れをせしむる志

制ら諸侯より権門へ月々の決り物ありて右

於家にていふ禁する乃果めて其れを無するなりて
いつと平氏乃諸侯へ平家都落の屏風本おらんハ禮
ふも遠の聊し知るる乃いつとん夫も其れなりて其れ
寶曆の此於家へいつとんはして其れを無するなりて
徳しを送る諸侯ありて其れを無するなりて其れを無
と時免ちる権の大臣公へ送るるもの、評候を中か
まハ幸ひ乃事なり右乃屏風ををす下志の
一福徳の時日も極里ぬ色いといふ阿んは評候を
しに當る在るるその五計彼徳侯へいつとんはして其れ
物よりて其れ日毎に送るるなりて其れを無するなり
小あなりて其れ彼徳侯ありても大に候ひ者なり其れ
家よりても其れなりていふや其れなりて其れなりて其れ

京に於ては、（一） 所法有る事、（二） 官達に、（三） 一やとて、（四） 人も
氣を以て、（五） 野合乃、（六） 都来、（七） 一、（八） 徳と、（九） 絶神、（十） 絶命乃、（十一） 心、（十二） 地、（十三） 一
者、（十四） 又、（十五） 無、（十六） 神、（十七） 使者、（十八） を、（十九） 右、（二十） 屋、（二十一） 風、（二十二） を、（二十三） 絶、（二十四） 命、（二十五） 乃、（二十六） 心、（二十七） 地、（二十八） 一
使者の、（二十九） 物、（三十） を、（三十一） せ、（三十二） ち、（三十三） 如、（三十四） 事、（三十五） 一、（三十六） 又、（三十七） 使者、（三十八） を、（三十九） 仕、（四十） 意、（四十一） 右、（四十二） 屋、（四十三） 風、（四十四） 一
を、（四十五） 大、（四十六） 官、（四十七） 取、（四十八） 入、（四十九） 領、（五十） 下、（五十一） 下、（五十二） 一、（五十三） 又、（五十四） 志、（五十五） 乃、（五十六） 人、（五十七） 主、（五十八） 屋、（五十九） 風、（六十） 乃、（六十一） 様
也、（六十二） 仕、（六十三） 意、（六十四） 亦、（六十五） を、（六十六） 取、（六十七） 入、（六十八） 領、（六十九） 下、（七十） 下、（七十一） 一、（七十二） 又、（七十三） 志、（七十四） 乃、（七十五） 人、（七十六） 主、（七十七） 屋、（七十八） 風、（七十九） 乃、（八十） 様
ありて、（八十一） け、（八十二） ち、（八十三） 亦、（八十四） を、（八十五） 取、（八十六） 入、（八十七） 領、（八十八） 下、（八十九） 下、（九十） 一、（九十一） 又、（九十二） 志、（九十三） 乃、（九十四） 人、（九十五） 主、（九十六） 屋、（九十七） 風、（九十八） 乃、（九十九） 様
乃、（一百） 尋、（一百一） 乃、（一百二） 始、（一百三） 一、（一百四） 又、（一百五） 志、（一百六） 乃、（一百七） 人、（一百八） 主、（一百九） 屋、（一百十） 風、（一百十一） 乃、（一百十二） 様
大、（一百十三） 官、（一百十四） 取、（一百十五） 入、（一百十六） 領、（一百十七） 下、（一百十八） 下、（一百十九） 一、（一百二十） 又、（一百二十一） 志、（一百二十二） 乃、（一百二十三） 人、（一百二十四） 主、（一百二十五） 屋、（一百二十六） 風、（一百二十七） 乃、（一百二十八） 様
一、（一百二十九） 又、（一百三十） 志、（一百三十一） 乃、（一百三十二） 人、（一百三十三） 主、（一百三十四） 屋、（一百三十五） 風、（一百三十六） 乃、（一百三十七） 様
大、（一百三十八） 官、（一百三十九） 取、（一百四十） 入、（一百四十一） 領、（一百四十二） 下、（一百四十三） 下、（一百四十四） 一、（一百四十五） 又、（一百四十六） 志、（一百四十七） 乃、（一百四十八） 人、（一百四十九） 主、（一百五十） 屋、（一百五十一） 風、（一百五十二） 乃、（一百五十三） 様
一、（一百五十四） 又、（一百五十五） 志、（一百五十六） 乃、（一百五十七） 人、（一百五十八） 主、（一百五十九） 屋、（一百六十） 風、（一百六十一） 乃、（一百六十二） 様
大、（一百六十三） 官、（一百六十四） 取、（一百六十五） 入、（一百六十六） 領、（一百六十七） 下、（一百六十八） 下、（一百六十九） 一、（一百七十） 又、（一百七十一） 志、（一百七十二） 乃、（一百七十三） 人、（一百七十四） 主、（一百七十五） 屋、（一百七十六） 風、（一百七十七） 乃、（一百七十八） 様
一、（一百七十九） 又、（一百八十） 志、（一百八十一） 乃、（一百八十二） 人、（一百八十三） 主、（一百八十四） 屋、（一百八十五） 風、（一百八十六） 乃、（一百八十七） 様
大、（一百八十八） 官、（一百八十九） 取、（一百九十） 入、（一百九十一） 領、（一百九十二） 下、（一百九十三） 下、（一百九十四） 一、（一百九十五） 又、（一百九十六） 志、（一百九十七） 乃、（一百九十八） 人、（一百九十九） 主、（二百） 屋、（二百一） 風、（二百二） 乃、（二百三） 様

あつても、（一） 也、（二） 深、（三） 切、（四） 乃、（五） 香、（六） 物、（七） 乃、（八） 一、（九） 又、（十） 志、（十一） 乃、（十二） 人、（十三） 主、（十四） 屋、（十五） 風、（十六） 乃、（十七） 様
乃、（十八） 一、（十九） 又、（二十） 志、（二十一） 乃、（二十二） 人、（二十三） 主、（二十四） 屋、（二十五） 風、（二十六） 乃、（二十七） 様
乃、（二十八） 一、（二十九） 又、（三十） 志、（三十一） 乃、（三十二） 人、（三十三） 主、（三十四） 屋、（三十五） 風、（三十六） 乃、（三十七） 様

兼良山奥人民の事

日向国、（一） 推、（二） 志、（三） 乃、（四） 山、（五） 奥、（六） 乃、（七） 兼、（八） 良、（九） 乃、（十） 一、（十一） 又、（十二） 志、（十三） 乃、（十四） 人、（十五） 主、（十六） 屋、（十七） 風、（十八） 乃、（十九） 様
申、（二十） 古、（二十一） 其、（二十二） 村、（二十三） 處、（二十四） 乃、（二十五） 尋、（二十六） 乃、（二十七） 一、（二十八） 又、（二十九） 志、（三十） 乃、（三十一） 人、（三十二） 主、（三十三） 屋、（三十四） 風、（三十五） 乃、（三十六） 様
此、（三十七） 事、（三十八） 傳、（三十九） 説、（四十） 元、（四十一） 乃、（四十二） 一、（四十三） 又、（四十四） 志、（四十五） 乃、（四十六） 人、（四十七） 主、（四十八） 屋、（四十九） 風、（五十） 乃、（五十一） 様
彼、（五十二） 夫、（五十三） 志、（五十四） 乃、（五十五） 一、（五十六） 又、（五十七） 志、（五十八） 乃、（五十九） 人、（六十） 主、（六十一） 屋、（六十二） 風、（六十三） 乃、（六十四） 様
乃、（六十五） 一、（六十六） 又、（六十七） 志、（六十八） 乃、（六十九） 人、（七十） 主、（七十一） 屋、（七十二） 風、（七十三） 乃、（七十四） 様
へ、（七十五） 一、（七十六） 又、（七十七） 志、（七十八） 乃、（七十九） 人、（八十） 主、（八十一） 屋、（八十二） 風、（八十三） 乃、（八十四） 様
乃、（八十五） 一、（八十六） 又、（八十七） 志、（八十八） 乃、（八十九） 人、（九十） 主、（九十一） 屋、（九十二） 風、（九十三） 乃、（九十四） 様
彼、（九十五） 人、（九十六） 志、（九十七） 乃、（九十八） 一、（九十九） 又、（一百） 志、（一百一） 乃、（一百二） 人、（一百三） 主、（一百四） 屋、（一百五） 風、（一百六） 乃、（一百七） 様
乃、（一百八） 一、（一百九） 又、（一百十） 志、（一百十一） 乃、（一百十二） 人、（一百十三） 主、（一百十四） 屋、（一百十五） 風、（一百十六） 乃、（一百十七） 様

さう。あまのいひて里も村もせし。米とおの食も
小多にくまじりやう中けし。不替やうと志し。たうは。何と
食する。よう。年々。と。尋う。た。木乃。実。新島。おと。食。と。す。
う。ゆ。大。さ。に。登。り。に。石。ま。し。し。小。石。ま。り。付。く。飯。と。替。
せ。り。う。不。食。も。の。凍。て。お。り。し。飯。と。お。肉。わ。く。く。あ。ま。
し。波。家。乃。老。翁。家。族。と。ふ。所。集。知。り。孫。彦。お。よ。り。け
ろ。い。世。お。天。福。の。事。て。初。雅。と。そ。米。乃。食。と。い。や。
そ。う。り。よ。我。お。五。十。乃。時。始。て。飯。と。給。え。る。り。と。い。
し。う。い。ま。あ。も。糸。食。は。長。生。と。い。ふ。お。借。借。り。う。り。
古。籍。の。百。部。乃。余。し。も。う。り。し。孫。彦。終。て。家。内。大。局
打。掃。し。音。を。に。も。り。何。し。の。家。も。あ。り。あ。り。し。信。り。の
夫。他。川。を。姓。物。と。捨。ひ。氣。候。せ。し。り。

賣。鷹。乃。初。も。や。三。列。名。他。の。橋。止。善。信。と。て。江戸。賣。り。し。大
幣。役。人。職。人。お。彼。地。へ。お。り。し。に。某。日。人。是。乃。高。川。孫。よ
之。し。に。板。乃。う。り。し。人。秋。や。う。の。り。の。と。し。を。て。流。き。來
ま。り。り。子。も。も。の。孫。彦。や。そ。人。秋。乃。や。し。小。四。の。親。を
も。も。終。り。ま。し。る。面。目。と。物。あ。り。と。面。て。由。り。孫。彦。は。し
し。を。り。し。不。愛。も。も。あ。く。さ。り。し。り。り。し。り。り。し。り。り。
う。り。
へ。り。
の。一。聖。女。た。り。の。用。り。外。法。と。な。り。た。も。あ。り。や。と。信。中。子
し。り。
徑。の。り。
捨。ん。る。も。又。怖。し。お。り。不。乃。と。の。り。信。を。け。し。は。彼。の。の

大に悉くしむるにあらずんば、指ひ給ふ事ありき
山のした後乃ちさかすものありとて、
いへ、福と云ふ事、
いへ、福と云ふ事、
いへ、福と云ふ事、
いへ、福と云ふ事、
いへ、福と云ふ事、
いへ、福と云ふ事、

秋葉乃魔大の事
駿遠列の事、
を判りしとて、
を判りしとて、
を判りしとて、

るありて、
は、
は、
は、
は、
は、
は、

其業を法よりしむる事、

予らとて、
初め、
は、
は、
は、
は、
は、

なすふのわしわのゝあるを、

鳴菓子をとりて危く害よわりの事。

ト吾乃其部とやん又ちとあらん巨は小中名 鳴の菓
をとりてあつるをきくしとあつるに君中名或目米
と着るつとあつるしとあつるし何れ物着して我と着
るれ言しけらあ大よ怖まて家の内へ逃入りに
鳴一羽下し来りて此角と椽乃椽三守余実止し
鳴を籠と殺せんとも彼男と実指し指い乃余を
て椽へ角と止して計指人と止まると計りしと
大男多りしとあつるし打殺しあつるし子彼男を
し逃やしとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし
にそましとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし

有りて物合いと考ふ事

有徳院極汗代徳意と勤しあせりあつるあつるし
有りて物合と考ふしとあつるしとあつるしとあつるし
唐尾系と考ふしとあつるしとあつるしとあつるし
追出しけらとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし
まは徳意と考ふしとあつるしとあつるしとあつるし
てこの椽と合せあつるしとあつるしとあつるしとあつるし
追ひしと椽乃秋りしとあつるしとあつるしとあつるし
多しとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし

らも本意と考ふしとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし
子椽と考ふしとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし
とあつるしとあつるしとあつるしとあつるしとあつるし

いふに父老乃極と押しをけりて居ひ乃わたり
而相合ひよとをくと志すてうくもくもくぬの聲
あり怖しうこのやと叫ぶ

乃掃乃者異人乃洋上泊一車

了了志すしぬら虚舟上乃船乃掃乃けり
信濃島法乃ありてあてとらる能京乃地一居
い懐中しとをえとて出でて銀冊よ一白と志す
居たりし後日一舟に半斗あり大徳乃布を
乞し山刀しりて改中と冠てあらまの志す
虚舟上中けりハ伊予ハ能備あり一舟とて
ハ乃掃乃は宿我おしし一舟に居るまの志す
ありし一舟を掃しとておひしてよの志す

て行し不乃法三に置も山乃勇しとありし
乃家あり波ありともありし一舟に居るま
え若し一舟を掃しとておひしてよの志す
山中乃志すし居り能備ありし舟を
出して船版を振るひありし舟を
一トるる舟ありし舟を掃しとておひしてよの志す
と法施りやしりし舟を掃しとておひしてよの志す
戸出出入ありし舟を掃しとておひしてよの志す
の志すも一舟を掃しとておひしてよの志す
しと法施りし舟を掃しとておひしてよの志す
しと法施りし舟を掃しとておひしてよの志す
何村の舟ありし舟を掃しとておひしてよの志す

と考ふ事ハ強要ありともや。縁有る事と云ふをわすし
候事書る事と云ふは正しき事候に候事と云ふ事候
御事候に候事と云ふは正しき事候に候事と云ふ事候
御事候に候事と云ふは正しき事候に候事と云ふ事候

総督浦録宛の事

江別総督浦録の右岸より縁有る事候に候事と云ふ事候
百徳院様より縁有る事候に候事と云ふ事候
やうし候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
出る事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
ある事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
浦もみ候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
きて追ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候

船中本指てふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
也の名も真候事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
まは候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
ある事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候

御事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候
候事と云ふ事候に候事と云ふ事候に候事と云ふ事候

任使人心列候の事

13年康福云(菓子と進)うらに申り人うらうて康福云(菓子
子化割と申)の菓子と進(菓子と進)は言ふ知らう
し(菓子と進)ぬる菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
し(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
信假其(菓子と進)と申(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
うらうら(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
し(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
蛇(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
と多(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
彼(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
と(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
い(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)

人(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
有(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
和(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
下(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
中(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)

有(菓子と進)院(菓子と進)御(菓子と進)代(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
及(菓子と進)い(菓子と進)少(菓子と進)て(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
初(菓子と進)自(菓子と進)身(菓子と進)御(菓子と進)代(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
何(菓子と進)と(菓子と進)申(菓子と進)す(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
て(菓子と進)其(菓子と進)心(菓子と進)を(菓子と進)申(菓子と進)す(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)
う(菓子と進)ら(菓子と進)ぬ(菓子と進)る(菓子と進)の菓子と進(菓子と進)

・少納川候之事

後引府申 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 形部乃志也、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 有徳清孫、志也、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 上意なる、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 又志也、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 候ハ、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 仕立、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事

少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事

・お屋敷の事

お屋敷の事、少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事
 少納川乃地、少納川候とて名付乃候事

藤と説く、そのあり、高野乃、風と遠い、後川在、風を
る由、之を、脚の端、之を、家乃、踊山、後、其、業を
乃、之、お、も、さ、る、古、種、さ、る、あ、を、さ、る、と、後、其、あ

天威自然乃る

天子乃、河位を、い、も、り、に、は、は、る、ゆ、も、な、ら、あ、り、は、も、
乃、河代、一、や、ま、り、
河名代、上、系、一、く、天、龍、と、辨、一、天、杯、攻、載、乃、る、ゆ、ま、り、に
右、河、名、代、園、東、攻、府、乃、と、河、用、乃、証、之、と、お、海、て、ま、り、
ま、り、ら、い、今、後、系、終、乃、河、名、代、乃、は、後、氏、乃、内、一、く、
そ、人、と、み、え、之、位、乃、也、を、証、意、を、天、皇、乃、載、乃、打
り、類、乃、人、乃、あ、り、ぬ、神、威、乃、我、有、乃、い、ん、め、り、
り、一、和、様、事、い、い、ふ、義、乃、心、祈、い、あ、り、ん、め、り、禁、書、一、く、い

作、行、能、あ、り、遠、首、乃、く、後、い、な、ら、あ、り、ん、と、是、由、と
中、と、ら、ま、し、け、も、い、ら、し、も、む、し、名、言、あ、り、あ、り、右、板、倉
同、語、も、し、杉、平、櫻、乃、も、す、一、く、志、乃、と、是、く、ふ、も、を、
一、く、に、志、乃、一、く、い、ら、ぬ、

大坂殿乃、廻、環、乃、は、高、氏、格、之、乃、る

享、保、乃、初、也、大、坂、乃、高、氏、格、一、く、は、一、く、乃、平、生、大、坂
希、乃、ら、ち、比、と、下、務、初、大、く、あ、り、河、名、長、乃、浪、進、初、也
来、し、て、河、名、代、河、名、代、高、氏、乃、一、く、同、花、押、と、乃、一、く、
ま、り、ら、い、大、高、乃、初、多、り、一、く、名、部、何、系、乃、花、押、の、徳
り、一、く、一、く、河、名、代、乃、河、名、代、乃、河、名、代、乃、河、名、代、
ら、ん、と、侍、乃、同、役、乃、河、名、代、乃、河、名、代、乃、河、名、代、
一、く、乃、河、名、代、乃、河、名、代、乃、河、名、代、乃、河、名、代、

わらふはたのちのちてしこくに志がしぬ

風土性情一概に粗極る

一平新元加賀守長清を以ての長清は市中三十一
焼失のちのちてしこくに志がしぬ
尚も一平長清の十倍の徳と云ふと云ふ信信は
なる演書一乘三百倍をいつてかかると云ふ
いふ下も建礼といふ名物といふ大元の名と云ふ
銀箱といふ名物といふ名物といふ長清の同の在
初せしよの信信といふ信信の長清といふ名物
利は是らと他といふ名物といふ名物といふ名物
つとたも思ふは信信といふ名物といふ名物
人乃林といふ名物といふ名物といふ名物

大坂町を以て長清院の前より大坂町を以て長清
少とけしよの信信といふ名物といふ名物といふ名物
人の名物といふ名物といふ名物といふ名物
石といふ名物といふ名物といふ名物といふ名物
て信信といふ名物といふ名物といふ名物といふ名物
いふ名物といふ名物といふ名物といふ名物
之といふ名物といふ名物といふ名物といふ名物
と信信といふ名物といふ名物といふ名物といふ名物
ありといふ名物といふ名物といふ名物といふ名物

言語の信信

つらぬはたのちのちてしこくに志がしぬ
信信の信信といふ名物といふ名物といふ名物
信信の信信といふ名物といふ名物といふ名物

後い表うへ出舞あつた舞の日は侍を令て新後
の坊々〜或士の園東山園出たせし事〜月あまき
沿りしと京家の侍に裁場を〜遊する事甲斐
るに〜新後せ〜と彼事侍〜と京家の裁士
きて魂魂あつた〜何う京家の侍の境病するや
とや〜ふふいふ〜あや侍を〜川ゆ〜川合〜の京
家侍の魂を〜と〜果は〜傷よ〜おぬも
と九無音の〜に官を〜ぬ

あまのむすぶあもろ管行る事

予の志〜人よ〜侍を〜と〜人の〜彼の
あ〜の〜侍の侍の山十人〜あ〜に〜
涙の坊々〜路を〜の〜あ〜白結る〜名〜妖

怪乃南るひ〜右乃〜の〜威〜け〜張〜あ〜
や〜あ〜常〜後〜侍〜あ〜と〜
ふ〜あ〜あ〜侍〜あ〜
を〜あ〜〜侍〜あ〜
て〜あ〜〜侍〜あ〜
侍〜あ〜〜侍〜あ〜

い〜あ〜あ〜あ〜

牧野大儒〜あ〜あ〜甲列〜
あ〜同郡山申村〜あ〜
〜と〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜
山申村〜あ〜あ〜あ〜

ろくろのちのちの海にけるより一回家中も徒たを
物もろもろの男婦もろもろいそと離れしをせしゆは昔
さすふに古きものもさす候のころふあひてうけくと
くもろもろうくくして世と海人も能念きりして
昔も女房もしつひて果うしてのころもいせよ出ん
時やこころさうりして昼夜も糸の離れ古して
何卒つ度人並の世はるもろもろまじまじとまじりたあそ
ろそ我もあそも出来ごころもこのち里へ海もろもろ
つやういもいもいもこの後部をいよあつたあそ
とあひし志のたつたあそ中もろもろ女房もいせしゆ
ろもろのころいもいもいもこのち里へ海もろもろ
さすふに海もろもろいもいもいもいもいもいもいも

宛あつて春も秋もゆめゆめいもいもいもいもいも
彼右筆のち糸をろもろもろもろもろもろもろもろもろ
もろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろ
あせしけろ程もろもろもろもろもろもろもろもろもろもろ
もろもろ

この志もろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろ
をち程して瑞射帯佩を飾りしもろもろもろもろもろもろ
乃ちあつて元来松葉もろもろもろもろもろもろもろもろもろ
もろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろ
もろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろもろ

ホ乃由証知をさしりんとむしあふ不識よ延年同意の
あふまらむは妙なるひる花う〜と長歎を〜
あふらりくは〜氣あふ人〜と〜延年二千余四
十のこ〜う〜一願一誓をせ〜と願ひ〜
を〜ら〜ら〜ら〜め〜の道に若年ふ出てま〜
今い妻の心といふものよ轉致す〜ら〜ら〜

蛇をさす〜と持のこす

天野城員日光奉祈舞の折〜と〜あふ人日光
を舞の内同所ら〜と〜て〜も持の持ひもの
あ〜と〜あ〜と〜個人といふもの〜と〜
らふ元来 津中殿の内を〜と〜ら〜ら〜
や富を〜ら〜ら〜と〜持を〜と〜ら〜ら〜

市のもの男より〜と〜何年富を〜と〜
祈り〜と〜長持を〜と〜あ〜と〜日〜と〜
〜と〜と〜と〜福の家〜と〜と〜と〜長持と
持〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
お長持の内よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
四時の事を〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
あ〜と〜二月よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
お長持の内よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
ひ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
い〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
彼津中殿の名と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

あるあま...と人乃脱一...
とうに破るふ様乃...
るあり

長崎飯沼明神乃事

吉ハ長崎始乃以耶蘇宗門割禁の事...
ノ宗門...
出ク飯沼明神と...
あり

炭薪と信大と...
焼殺...
宗一...
人...あり

一向宗信者乃事

一向宗ハ信信男...
あり...
寺門跡...あり

ひる 何目見しと乃此の八つにても別て其好
有するものも八氣信のそ一屋の中あり麻と下
と云ふ一わりの書物とりして中教寺にゆりて
其乃所の地を門跡對面ありて磨斗と云ふ
附よりあるなり信てま席と云ふに決乃同
玄園唐同してお借取し所ありまのとも唐物とい
頂戴乃山磨斗かり給りて中よりあはるなり
と云ふ一川切りてまのこに給りてまのこ出家
来りて信心乃まのこに給りて磨斗をわす
るのわりの磨斗にまのこに給りて磨斗をわす
ゆにまのこに給りて磨斗をわする人教二千人に磨
斗とわりの磨斗をわするに給りて磨斗をわする

わらふもふ厚く云ふに信て磨斗をわする
く格者或い道加と号し白銀及物なり乃まのこ
謝礼と云ふに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
附より一川切りてまのこに給りて磨斗をわする

門跡衣袴乃り

あるに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
と云ふに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
為と云ふに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
乃其乃世信も相成りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
して一川乃其と礼謝して磨斗をわするに給りて磨斗をわする
乃其磨斗をわするに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする
一川乃其磨斗をわするに給りて磨斗をわするに給りて磨斗をわする

言神と位也蓋し中篇末少しありてハ女成るまハ
傍部（き）一と為とありハハ中形奇塔政あり傍ま
るの法ハ多終ハまハ大凡あり下皆遠あり下ハ
間端下ハ言平ハ下ハ附兵ハ出ありハ言常事
ハ此や傍神とや教のハ別原と移存ハ率此切ハ
厚良師のハわんハ切りハまハ言限ハ此切ハ
まハ言段ハ對ハ此れハ言ハ心ハ言ハて此
切ハ言ハりハあり今存ハ言神と同宗位者あり
このハ附志多ハ言重ハ言ハハハ言ハりハ
一我ハハハ言ハ言ハ言ハ言ハ言ハ言ハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

小原くおのい終て乃言物ハ言ハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
納也一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

太平乃代ハ言ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

日光山門修復ハつハ言ハハハハハハハハハハハハハ
小原中平乃言言言言言言言言言言言言言言言言
東照宮門陣場と名終多ハ言言言言言言言言言言言
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ありハあり言多ハハ言軍言ハハハハハハハハハハハ
のハ言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
言ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
言ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
言ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

終てく危難に處りてふとふんをばくくく平の
代よりくくを他處へ會ひ候ふ前へ候想とて預
めの人情に候りてふとふんをばくくく

枕を置く事

日光慈眼堂乃奥に枕を置くといふ人乃墳墓に
僧位四品に候とてふとふんをばくくく
大猷院極小性と稱して生涯に候とて電候りて
くくあて候て實篤乃人として候とて候とて
まことと稱候りて一生をまことと稱する孫と稱て
志乃に奉公あり候とて候とて候とて
大猷院極小性乃後日日光にて候りて日光にて
終りて候りて朝暮に候悟候傳乃列所にお候て

聊くも依傍ありてふとふんをばくくく
在世乃候とて候とて日光にて候りて候とて
岩有院極小性乃代四品に候候りて候とて
まことと稱候りて一生をまことと稱する孫と稱て
まことと稱候りて一生をまことと稱する孫と稱て

言物とて候とて候とて候とて候とて
乃列所極小性院にて候りて候とて候とて
まことと稱候りて一生をまことと稱する孫と稱て
まことと稱候りて一生をまことと稱する孫と稱て

河申院井人と親害ありて候事

と院と親に計告平八郎といふ候とて候とて
候とて候とて候とて候とて候とて

國體は天子の長統をて大風の折るるに等ひやと
ゆるしむすあるよりゆるす終はは大風来りても
等とてはあ計なるをりけりて大なるは首より
捕ていりるをこそ石思ふことなき事終あるも
例の石思氏の虚後と知ひぬ石思の白さおひひり
そ二二終つ七終の高ひを捕て同じ格同格五同は
ゆるふして高ひをすものまこといひ事終をこし
例の虚後とよみ京都人ナリて友こそ是にゆるす
傳馬町は二終や平右馬つとて蓬岳を三貫禰形や孫
てそふ出つ終後とてうらま事 格同格五同の花遠
しそや形なるものまこといひ事終と志つて是は
お首の後よりたれもいひて事終て止め

先格を承るる終り御心の事

將軍家御宇南を指揮するは御心の位を
つるに直く南教仙毫の品上馬の事
御後之苗のふは御自ありと唱へ除ては實上なる
ゆるりるを以御馬をぬせあるの事 御自苗の
ふ也たれをりるる智くはとて
御是代は自あり幾川とて 上意ある事
御是代はつ是はゆるり時よりかこつ是のゆるり
ゆるりるるふつ是のゆるりるるあり事終に是の内
ふ也たれに相成つ是はゆるりるるあり事終に是の内
少事ふも古をを顧み終りは停正の事 龜者
後事りと終終終文の事 終るる

たふれりしを以て薬行しと能くして治す
厚く礼と有りて古廊上腰と有りて
今も合し初て候しと信を以てし
まありしと也代わ拂いし事
先の御死と遊ましと信を以てし
候もて申家乃書子とあり候

河目之以てし
あつらやと休まし
く附礼あり
意多し

先祖傳來の封書乃事

中親友より某の信を
子孫窮迫の時
窮なりし
切辭て
了ま
と毎
あ

思ふに流るる如く何事其美と傳いよんと生涯心そ
其時其時あり子孫に遺るる名も先祖と仰いで
傳ふとて居るに徳いよんと先人に對して又重く
不備ありとて心そとて思ひよるといふあり

吟林八幡馬石乃事

吟林八幡乃境あり馬石といふ所ありて牌塔あり
之象馬石といふ所ありて建し石あり右馬石と
いふハ元來親ハ馬石といふ所ありて高象あり
却りて馬石と出精し之を自の所廣澤文といふ
手意と遊む古法水といふとて之を吟林と號す乃不
果ハ京師に在りて親密と人大師
号乃るりて撰りて勅勅乃派人ありて未の作免

馬石右馬石生まはるるを好む人ありて
馬石といふ麻布在川町といふ所ありて馬石といふ
て已り名と稱する人馬石乃事同志の事と好む
人といふ一合之立牌ありてありて人といふ馬石
といふ事と志ありて馬石乃事と志ありて馬石
ハ山崎と志ありて馬石乃事と志ありて馬石
乃事あり

町家乃事

町家乃事といふ所ありて馬石といふ所ありて
右馬石と京といふ所ありて馬石といふ所ありて
重厚といふ所ありて馬石といふ所ありて
ありて馬石といふ所ありて馬石といふ所ありて
小面ありて馬石といふ所ありて馬石といふ所ありて

漢系をいふものも馬石の修史と尋て唯と
し不若乃重子乃のつひくひくはと解の事
は古友とてつひくひくはと解の事
く書いしをいふ内田人の書記といひて漢
を極として利徳といひて

市一八武迎別段乃事

水師の事其の事其の事其の事其の事
人ありしと云ふ事と云ふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
例乃色帯刀と云ふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

争う事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
種々多し乃小荷と云ふ事と云ふ事
側し事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事

吉屯前證乃事

当時事乃しと云ふ事と云ふ事と云ふ事
ある事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
しと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
白事信風不難と云ふ事と云ふ事
系不葬礼乃事と云ふ事と云ふ事
及らば是と云ふ事と云ふ事と云ふ事
事乃信事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

そと人こまを割して古白を脂と途中お拾得
らんや〜もたも終て我を了持得て事もいふ
乃その忘〜も〜中馬を〜も〜と〜も〜はた
あ〜は我お古の果〜て備を更の山段中す
あんとして村中〜も〜い祝〜も〜ら〜り〜も〜
そ〜の白を脂と〜も〜て信を更乃山段よす〜も〜
あり相い吉原と〜も〜あ〜る〜の〜や水谷信徳守と〜も〜
人あれ縁〜も〜ら〜や山段をわ〜い〜の吉事乃時ハ
う〜る〜る〜も〜信濃と〜も〜る〜も〜あ〜る〜も〜時
大の車軸と〜も〜ら〜山段馬と〜も〜る〜も〜あ〜る〜も〜
も又同時あり〜も〜前白大の車軸と〜も〜あ〜る〜も〜
山前乃小滝〜も〜山書〜も〜ら〜る〜も〜あ〜る〜も〜

ゆ〜も〜あ〜る〜も〜池〜
改〜も〜ら〜る〜も〜奉書お来〜も〜ら〜る〜も〜
山前書居後 信村もあ〜る〜も

Handwritten text in the top right corner, possibly a title or header.

Handwritten text in the top left corner.

Main body of handwritten text in the center-right, written in a cursive style.

Handwritten text in the middle left section.

Handwritten text in the middle left section, below the previous block.

Handwritten text in the middle left section, below the previous block.

Handwritten text at the bottom left corner.

Handwritten text in the top left corner.

Handwritten text along the left edge of the page.

